

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492700032	事業の開始年月日	平成18年10月1日
		指定年月日	平成18年9月15日
法人名	木村貿易有限会社		
事業所名	三浦市総合福祉センターグループホーム第2		
所在地	(238-0102) 三浦市 南下浦町 菊名 1258-3		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名 ユニット数 1 ユニット
自己評価作成日	令和4年1月7日	評価結果 市町村受理日	令和4年4月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご自宅での暮らしをそのままに美味しい食事をしてゆっくりとお風呂に入り毎日をご過ごせます。畑など自然に囲まれ、三浦市を360度見渡せる景観の中で季節の移り変わりを感じながら生活できます。食事は新鮮な食材を職員が仕入れ、提供します。ご家族の負担を減らす為、通院介助は積極的に職員が行います。24時間医療連携がとれ、安心できます。利用料も低価格となっております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年3月8日	評価機関 評価決定日	令和4年4月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は京急線「三崎口」駅から引橋バス停下車の三浦市総合福祉センター裏の畑に隣接する平屋1ユニットのグループホームです。センター内の三浦市総合福祉センターグループホームと同管理者で協力した運営が行われています。

<優れている点>

ミカン園や農園に囲まれ東京湾を遠望する丘の上であり畑作やハウス栽培の地域で、近くには小網代の森入口があり自然に恵まれた環境です。新鮮野菜や魚が手に入りやすく、ホームの食事に彩を添えています。三浦市の「地域福祉活動計画」に準じたホームと謳われる通り、ボランティアや医療面で交流や連携を重視しています。運営委員会メンバーは行政や民生委員など各々複数加わる体制、社会福祉協議会と合同防災訓練開催など地域行政との関係も深く関わりをもっています。建物内は車いす対応が可能で、リフト浴も備えゆったり入浴できます。自宅での暮らしをそのままに過ごせるよう、利用者に寄り添う家庭的な生活の実現を理念に掲げ、認知症施設として、家族の考えや要望にも応える姿勢を大切にしています。

<工夫点>

利用者の通院、外出などの要望に家族負担軽減を考え、可能な限りの職員対応や、コロナ禍での看取りにも心を込めて家族のお見送りをサポートする対応をとるなど、丁寧なケアに努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	三浦市総合福祉センターグループホーム第2
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設時に作成した理念を事業所内に掲示し、理念の共有を図っている。	「利用者に寄り添い家庭的な生活を実現する」という理念を掲示しています。朝のミーティングで読み上げて職員間で共有しています。「認知症介護の原則10カ条」を行動指針として丁寧に介護を進めていくよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ウクレレボランティアや傾聴ボランティアなど地域での活動の場の提供や、運営推進委員に民生委員に入ってもらい、地域との繋がりを持っている。社会福祉協議会のイベントに利用者様は参加されている。	様々なボランティア活動により地域の人々との交流を進めています。社会福祉協議会主催のイベントに参加しています。コロナ禍の現在、多くが中止となっていますが、今後社会福祉協議会のイベントに積極的に参加する検討をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ウクレレボランティアや傾聴ボランティアなど地域での活動の場の提供や、運営推進委員に民生委員に入ってもらい、地域との繋がりを持っている。社会福祉協議会のイベントに利用者様は参加されている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で開催は自粛していますが、各委員への電話連絡等で意見を聞き参考にして事業の運営を行っている。	運営推進委員会メンバーの民生委員、介護保険課や地域包括支援センター職員は複数参加し、地域との結びつきを強化しています。コロナ禍ではそれぞれの参加者に連絡を取り、意見を聞き取り議事録を作成して配布しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当課の職員を運営推進委員になってもらい、意見を気軽にもらえるようにしており、生活福祉課職員ともこまめに連絡を取り合うようにしている。	毎月、三浦市高齢介護課に入居状況の報告や福祉課に入居者の相談をしています。管理者交代時に手続きの細かな点までサポートを受けています。地域や介護の情報を共有してきたグループホーム連絡会はコロナ禍の今は中止となっていますが、今後も継続して連携して行く考えです。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員同士の引継ぎ等により、利用者様の状況の変化を把握しやすくしており、状況にあったケアをおこなっている。	経営者宣言で事業所の方針を掲示しています。身体拘束の状況は3ヶ月毎、身体拘束適正化委員会で確認しています。管理者はスタッフとの円滑なコミュニケーションに努め、疲労度や介護状況を把握しています。ベッドの4点柵については家族の同意を貰い、行政に届け適正に使用しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の研修等に参加し、虐待についての認識を持ち、虐待に繋がらないケアをおこなっている。	虐待の種類について細かい内容で研修しています。また、影響が多岐であることを学んでいます。不適切ケアについて話し合い虐待防止に努めています。外部研修受講後は、報告書を提出して他スタッフが閲覧する形で学びを深めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者様の後見人等の立場について話し合いをとおして成年後見制度について理解しあえるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居相談の時点より、入居後の生活の不安や疑問点について説明をし、契約時にも詳細に本人および家族に対して説明を行い理解を求めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様に面会に来られた家族等に近況の説明をし、状態を把握してもらい要望等も聞くようにしている。また電話でもこまめに家族に連絡するようにしている。	毎月の利用料明細書を送付する際に、家族へ利用者の生活状況や様子を報告しています。利用者から希望があった場合には叶えるように努めています。カラオケをしたいとの要望にも、法人に伝えて器具を用意し、楽しく歌える環境を整備した事例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見を聞くようにする為、その都度に面談等を実施して職員の思いや状況を把握するようにしている。	管理者は職員から積極的に声を掛けられる関係を築いています。都度面談を設定して、聴き取りをしています。相談は、賃金、有給休暇、就業時間の改定に繋げています。献立、室内装飾、イベント内容に職員の意見を反映させ意欲向上に努めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表は管理者や職員の状況や思いを把握するように努め、日々の職員との会話の中でも職員の思いを把握している。	管理者はスタッフの意見を聞き良好な人間関係が保てるよう努めています。自由に有給休暇を取得できる雰囲気作りも大切にしています。管理職や経営者と個人面談で人事考課を行うシステムを取っています。今後は資格の取得補助も検討しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勉強会の実施や、外部研修への参加等認知症ケアに対する理解を深めている。	昨年、会社が取りまとめ5名実務研修を受講しています。キャリアアップも推奨して給与に反映し、意欲を高めるようにしています。内部研修では、訪問看護師に講師を依頼したり、経験豊富な職員を担当にするなど、職員のやる気に繋げています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	三浦市グループホーム連絡会の定例会への出席をし、それぞれのホームの現況や問題点を把握し、サービスの質の向上へと繋げている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談の時点より、本人や家族との話し合いで、性格や生活の様子などを把握し、入居後に不安にならず生活が送れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居相談の時点より、本人や家族との話し合いで、性格や生活の様子などを把握し、入居後に不安にならず生活が送れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	職員同士の引継ぎ等により、利用者様の状況の変化を把握しやすくしており状況にあったケアをおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員との気軽な会話や、日常生活の中で出来ることを職員と一緒にこなすことにより、同じ生活をする関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の面会時などに居室で利用者様の食事介助などを家族にお願いして、家族による本人の支援をできるようにして、現在の本人の状況を理解してもらえるようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	面会の時間を細かく決めずにいつでも面会に来やすいようにしている。また知り合いからの電話の取次ぎなども出来るだけ行っている。	入居前の生活歴や趣味を聞き取り基本情報に記載し活用しています。現在はコロナ禍により面会は中止ですが、先月の看取り時には、感染症対策の上、ゆっくり対面できる配慮、心を込めた対応に努めています。外食ができない今は、寿司など、好きな物を食べたい人には購入し居室で食べてもらうなどの配慮をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の利用者様同士の会話などで利用者様同士の関係を把握し、お互いが良い関係が保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した後も、相談にのるように努めてその後の生活への支援の相談も受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、利用者様との会話の中で、思いや希望を出来るだけ把握し、思いや希望に沿った生活ができるように努めている。	利用者とのコミュニケーションを大切に日々のケアから聴取しています。聴き取った内容を共有しかかわり方を深めるように努めています。利用者と同様に、心配している家族の考え方や希望、要望にできるだけ添うよう考慮しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居申込書に本人の生活歴や嗜好等の記入欄があり、家族から本人の在宅での生活状況を聞くことで本人の生活について把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様にこまめに声かけをし、また居室での状態を把握し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当ケアマネージャーが率先し、利用者様また家族の要望を聞き、サービス計画を作成し利用者様の要望に即したサービスを提供している。	利用者や家族の生活への希望は、ケアマネージャーが聴取しています。「他の利用者と話す機会を作って欲しい」など家族の希望もプランに反映しています。ケアプラン変更時にはサービス担当者会議を開催し、本人や家族、施設職員が話し合いをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員がいつでも見ることができるところに記録を配置し、情報の共有ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院が必要になった場合、家族に代わって通院等もできるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域で活動しているボランティア等がホーム内で活動できるようにしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	24時間、365日いつでも電話で相談ができアドバイスもらえるようにしている。また随時往診もお願いできるようにしている。	月2回の内科医往診、隔週の歯科医来訪、週1回の看護師来訪により、定期的な医療管理を実施しています。受診内容は申し送り時に確認し、職員間で共有しています。訪問リハビリテーションの利用により、機能維持を図っている人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者様の日々の変化を看護師に相談でき、アドバイスをもらえるようにしており、適切な受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も病院の相談室等に定期的に連絡をし、病院での状態の把握に努め、退院後にホームでの生活が無理なく送れるようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化する可能性が出てきた場合、早い段階で、家族等と話し合うようにし、その後の生活の送り方について話しあう機会を設けており、方針を共有して支援している。	入居時に「重度化・終末期ケアの指針に対する同意書」を取り交わしています。状態変化の都度、本人と家族の揺れ動く気持ちに寄り添って、ケアの方向性を確認しています。訪問看護師によるレクチャーを行い、看取りについて学びを深めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルを作成しており、それに沿って職員は行動し管理者に報告したり対応することができるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を年に2度実施し、災害時の対応と非難について職員が対応できるようにしている。	隣接する建物内の三浦市社会福祉協議会と合同で、年2回避難訓練を実施しています。消防署職員の実演による消火器の使用法を見学しています。3日分の備蓄を用意し、保存水、乾燥菓子、アルファ米、レトルト食品を施設の倉庫に保管しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は利用者様の人格やプライバシーを尊重して声かけをおこなっている。	人生の先輩として、利用者への尊敬の念を大切に接しています。敬語での対応、さん付けでの呼称を基本としています。入室時にはドアノックを励行し、着替えの際にはドアやカーテンを閉めるなど、プライバシーへの配慮に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員と利用者様が気軽に会話できる状態ができており、利用者様から希望が言えるようになっていて、職員もその希望に対し、どのようにしたら希望が叶うか利用者様と話し合いながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の多くが居室で自分の時間を大切にしながら生活しているが、その中で何か希望や要望があるか把握できるように声かけをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者様が希望する化粧品等を購入して本人が満足できる身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の可能な人は食事後の食器をさげてもらするなど、片付けを一緒におこなっている。	食材は買い出しに行っていますが、来年度から調理済み食材を利用する予定となっています。メニューは調理担当者が食材を見ながら決めていきます。1日3食を完食する利用者が多く、食事への満足感を大切に支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの咀嚼や嚥下の能力に応じて食事形態や食事量を変えて食べやすいようにしている。また、水分摂取については一人ひとりにお茶やジュースなどで十分な量が摂れる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者様一人ひとりの能力に応じて、本人が出来る場合は歯磨きをしてもらい、出来ない人は介助で口腔ケアを毎食後おこなっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄について声かけをして利用者様がトイレに行きやすいようにしており、利用者様の排泄のパターンや習慣を把握するようにしている。	チェック表により利用者の排泄リズムを把握しています。一人ひとりの排泄リズムに基づいて、トイレ誘導の声かけを行っています。利用者によっては夜間帯も定時誘導し、トイレでの排泄を大切にしています。現在、ポータブルトイレの使用者はいません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分や牛乳をなるべく多くとってもらいようにし、便秘にならないようにしている。排便チェック表を作成し、管理をおこなっている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	都合で入浴日に入浴できなかった利用者様には、他の日に入浴をしてもらうようにしている。	週2回、午前中に入浴しています。ゆず湯で季節を感じたり、入浴剤を楽しむなどの工夫をしています。毎朝のバイタルチェックで身体状況を確認し、入浴後にはスポーツドリンクを飲み、水分摂取に心掛けています。安心快適に入浴できるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様は居室で生活する時間が多くその時々状況に応じて休息している。また夜間も居室でテレビなどを観ながら好きな時間に眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬している薬は薬局で管理して貰っている。服薬は職員が支援している。副作用に関してはバイタルチェックや利用者様の様子観察で理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	塗り絵やカラオケ・ゲームなどをして気分転換を図っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出は自粛しています。	コロナ禍の現状では、通院以外でホームの建物から外へ出る機会が殆どありません。コロナ収束後には、散歩、買い物、外食などの外出支援の再開を考えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は利用者様ごとに事業所で預かっている。その中で希望により買い物等で使っている。預かったお金は支払いごとに記録し、残金管理を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかける希望のある利用者様には電話がかけられるように支援している。年賀状を出したい利用者様にはそのお手伝いをしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間には鉢植えなどの植物を置いたり、ピアノなどを置き、また季節にあった置物などを置き居心地よく過ごせるように工夫している。	リビングにはテーブルやベンチを設置しています。共用部分の掃除は、床のワックスがけも職員が行い、清潔な空間を提供できるように配慮しています。新型コロナウイルスへ感染症対策として、ホーム入口に検温機を置き、消毒と換気を定時で行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にはソファを置いたり、個別の椅子を配置したりして、利用者様同士で会話ができるように工夫したり、利用者様が独りになりたいときにはその環境を整えている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人が居心地よく生活できるように本人が大切にしているものを持ってきてもらうようにして出来るだけ落ち着いて生活できるように工夫している。	利用者それぞれが馴染みの品や家具を持ち込んでいます。仏壇を持ち込んでいる利用者もいます。衣替えや夏冬の寝具類交換は、主に職員が行っています。照明、エアコン、ベッド、カーテンは備え付けとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内には手すりを配置し、邪魔になるものは配置を控え安全に自立した生活ができる様に工夫している。		

2021年度

事業所名 三浦市総合福祉センターグループホーム第2

作成日：令和 4 年 4 月 18 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員の資質向上に向けた研修等への取り組みが現状では完全でない。	外部研修等の情報を出来るだけ職員に周知し、参加を促す。	郵便物やFAXその他研修の内容がわかるものを職員の目につきやすい場所に掲示する。	6ヶ月
2	29	地域資源の把握が十分にできていない。	市内で活動しているボランティアサークルを把握し、レクリエーション等への参加依頼を行う。	市民センターやボランティアセンター登録のボランティアへの呼びかけを行う。	6ヶ月
3	35	災害対策が十分とは言えない。	災害時に対応できる体制を作る。	業務継続計画（BCP）の作成。	24ヶ月
4					ヶ月